

9-9

特別養護老人ホームにおける集団音楽療法

帰宅願望の強い A 氏が穏やかに参加するということ

特別養護老人ホーム 桜町聖ヨハネホーム

ケアワーカー 鶴澤朋子	
東京都小金井市桜町 1-2-24	
TEL : 042-381-1234	E-mail : st.johnshome@ma.newweb.ne.jp
FAX : 042-381-1219	URL : http://www2.newweb.ne.jp/wd/johnhome

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	当ホームは敷地内に同法人の桜町病院、桜町高齢者在宅サービスセンターがあり、種々のサービス事業を行っている他、市の委託事業として地域包括支援センターがある。ホームの入所者は 104 名・ショートステイ 8 名定員で、現在の平均介護度は 3.72 である。
----------------------------	--

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 単調になりがちな日常生活の活性化と心身機能の向上を目的とし、生活の場でもあるテイルムにて集団音楽療法を行う。○ その中で、帰宅願望の強い A 氏の活動内での変化を 8 ヶ月間、参加回数 14 回を I～V 期に分けて観察した。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 集団音楽療法活動<ul style="list-style-type: none">・ 週 1 回、1 時間、テイルムにて 6～10 名の利用者が計画的に参加する・ プログラム内容：導入歌「とんがり帽子」⇒一人ずつ太鼓を使用して挨拶⇒発声⇒季節の歌・会話⇒体操⇒活動的に歌える歌⇒終わりの歌・ スタッフ：セラピスト 1 名・アシスタント 2 名(3 名ともケアワーカー)・ 毎回ビデオ撮影・終了後スタッフで反省会・記録○ A 氏<ul style="list-style-type: none">・ 介護度 4、帰宅願望強く、常に徘徊、利用者同士のトラブルあり。・ 「活動時間内だけでも徘徊することなく穏やかに参加する」事を目標とする。・ 月 2 回、計画的に集団音楽療法参加・ 前列に誘導し、太鼓を使用した挨拶から会話など、1 対 1 で深く関わる。	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 入所当時より気が向いた時に後方に自ら座り口ずさんでいた。○ I 期 (1～4 回目)<ul style="list-style-type: none">・ 参加するも「トイレに帰る」と言って席を立ち徘徊する姿あり。・ 途中退席してしまい、最初から最後まで参加はできず。○ II 期 (5～8 回目)<ul style="list-style-type: none">・ 準備段階や「とんがり帽子」を歌っていると、お誘いしていないのに自ら参加してくる時がある。・ 活動中に席を立てて徘徊する回数が減り、徘徊しても必ず元の席に戻ってくるようになる。○ III 期 (9～11 回目)<ul style="list-style-type: none">・ お誘いしていなくても「とんがり帽子」が始まると、毎回手拍子をしながら自ら参加してくる。・ 他利用者に対して話し掛ける姿みられる。・ 活動中途中退席せずに、最後まで集中して参加できる。○ IV 期 (12～13 回目)<ul style="list-style-type: none">・ 活動直前広範囲に徘徊しているも、「とんがり帽子」が始まると自ら椅子を持参して参加する。・ テーブルをじっと真剣に見つめて集中して最後まで参加している。○ V 期 (14 回目)<ul style="list-style-type: none">・ 13 回目後より体調不良にて 1 ヶ月不参加・・ 1 ヶ月ぶりに参加するも、最後まで集中して穏やかに参加。 <p>〈今後の課題〉</p> <p>活動の回数を重ねる毎に、集中して穏やかに最後まで参加し、普段徘徊している時とは似つかない表情がみられたことを受け、いかにその穏やかさを日常生活の中でもみられるようにするのが今後の課題と考える。</p>
---	--

【メモ欄】